

国語科学習指導案

平成 25 年 6 月 18 日(火)

学 級 2 年 G 組

指 導 者 牧野 太輝

展開場所 多目的ホール

授業の視点

生徒の実態として、書くことについてテーマや文章の形式を設定することを苦手とする生徒が多い。本単元では、課題設定を苦手とする生徒が、書きたいという意欲をもち、自分の力で課題設定をすることができる力を育てたい。

言語活動として「やさしい日本語」の筆者に自分たちの考えを読んでもらうために文章を書くことを設定する。書くことに対する意欲づけとして、一人ひとりの個性を生かした視点で文章を書けるように指導していく。

課題設定をする力をつけるための具体的な手立てとして、説明文を読み取り、自分の考えをもったり広げたりすることができるような観点を指導する。

また、文章の課題設定をするときには、学習ノートのメモを見ながら助言をしたり、学習者の趣味等をいかに課題設定につなぐかを相談したりする。また、学習者どうしても自由に交流できるような環境をつくり、課題設定までは自由に交流をしながらお互いの課題設定に対して助言しあえるようにする。

1 単元名 「やさしい日本語」から考える

2 単元の目標

- 説明的な文章を読むことを通して、筆者の考えに関心をもち、自分のものの見方や考え方を大切にしながら文章を書こうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 文章を読んで考えたことについて、独自の視点で課題を設定し、自分の考えをまとめることができる。(書くこと ア)
- 自分の考えを的確に表す言葉を吟味し、文章表現に生かすことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(イ))

3 評価規準(評価方法)

国語への関心・意欲・態度	書くこと	言語についての知識・理解・技能
・文章を読んだ自分の考えを整理し、独自の視点で課題設定をしてまとめた文章にしている。(文章)	・社会生活の中から課題を見つけ、知識や体験と関わらせて文章のテーマを決定している。(文章)	・自分の考えを明確に表現するために、辞書を活用するなどして、言葉の意味を吟味しながら文章を書いている。(観察)

4 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、説明的な文章に表れた筆者の考えを自分の知識や経験と関連付け、自分の意見を文章にまとめるという言語活動を行う。具体的には、説明的な文章を読んで、その筆者に読んでもらうことを目的とした文章を書きあげることがめざすものである。

その具体的な方法として、書くことの指導事項のうち、「課題設定や取材」を重点的に指導する。

まず、説明的な文章を読む段階では、読みながら自分の考えを広げていくことを指導する。単元のはじめに、考えを広げるための観点を提示する。

A	筆者の考えと自分の体験を関わらせる。
B	筆者の考えに賛成か反対か考える。
C	関係資料を集める。

この3点を提示することによって、文章を読んで生まれた疑問の種や小さなアイデアから課題設定につなげていくことができると考える。AとBの観点を中心に活用し、それを深めるためにCを補助的に活用するという方法を提示する。これらの観点を活用して書いた文章の例を生徒に提示する。【資料】

また、文章を読みながら生まれた自分の考えを文章に生かせるように、学習ノートの左端に考えをメモするための余白を作らせる。

次に、文章を書く段階では、学習者一人ひとりの独自の視点を生かした課題設定を行うように支援をする。書く目的として、「やさしい日本語」の筆者に自分たちの考えを伝えてもらうことを設定する。読んでもらうためには「やさしい日本語」について中学生の個性を生かした様々な視点から文章を書くことが必要である、ということを書く動機づけとしたい。

指導者の立場としては、課題設定で行き詰まっている学習者に対し、学習ノートのメモを見ながら助言をしたり、学習者の趣味等をいかに課題設定につなぐかを相談したりする。また、学習者どうしても自由に交流できるような環境をつくり、課題設定までは自由に交流をしながらお互いの課題設定に対して助言しあえるようにする。

教材は、佐藤和之「やさしい日本語」(光村図書 国語2)を扱う。本校の生徒の多くは、東日本大震災を経験し、ひどい液状化現象を目の当たりにしている。また、学区内には多くの外国人が生活している。この文章の「災害時の外国人に向けた日本語」という主題は、学習者が必要感をもって文章を読むことに十分なものであると考えた。また、コミュニケーションの本質や、外国人にとっての日本語の難しさなど、地震に関連しない課題設定も十分考えられる点も本単元に適した教材であるといえる。

(2) 単元で身につけさせたい力(国語力 22 との関連)

※「国語力 22」は、平成 23・24 年度千葉市教育委員会研究指定校である千葉市立葛城中学校が、「国語科の役割」として他教科で活用できる国語科の言語活動を整理したものである。他教科の知

的活動の基盤となり、各教科で身につけるべき力の定着の手段となることを目指している。

中学校学習指導要領では文章を書くことについて、「課題設定や取材」、「構成」、「記述」、「推敲」、「交流」のそれぞれに関する指導事項で構成している。本単元では、その中の、「課題設定や取材」、書く課題を決め、材料を集めながら自分の考えを形成することを身につけさせたい力の中心とする。

そのための具体的な手立てとして、説明文を読み取り、自分の考えをもったり広げたりすることができるよう以下の3点を指導する。

A	筆者の考えと自分の体験を関わらせる。(20 関連づける)
B	筆者の考えに賛成か反対か考える。(22 評価する/18 多角的にみる)
C	関係資料を集める。(17 情報の吟味をする)

また、文章の課題設定をするときには、学習ノートのメモを見ながら助言をしたり、学習者の趣味等をいかに課題設定につなぐかを相談したりする(20 関連づける)。また、学習者どうしても自由に交流できるような環境をつくり、課題設定までは自由に交流をしながらお互いの課題設定に対して助言しあえるようにする(11 話し合う/13 共感的に聞く)。

(3) 基盤となる言語環境や継続的な取組

書くことに関して、第1学年では、読書感想文や自由作文の指導を行った。「問いを立てる」「何を書きたいのかを明確にする」ことを意識させた。また、入試問題を題材に課題作文の書き方について指導した。「自分の立場を明らかにして書く」「グラフなどの資料に注目して自分の考えを書く」ことを意識させた。

第1学年からの継続的な取組として、小説の学習において、登場人物の心情や表現についての自分の考えを、根拠を明記してノートにまとめる活動を行っている。説明文の学習では、学習の最後に、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる活動を行ってきた。

本校の特徴的な取組として教科センター方式(教科教室型)がある。教科教室の背面に読書の輪を広げるための掲示物や、授業で扱っている内容にあった掲示物を整備している。また、生活文や要約文を書く活動後には、見本となるような作品を掲示し、良き例に学ぶことのできる言語環境を作っている。

5 生徒の実態(指導の経緯)

略

6 単元指導計画(全6時間扱い)

時	学習内容と活動	指導や支援の手立て(◇は評価規準)
1	○学習の見通しをもつ。	◇文章を書くときに、考えを広げるための観点を知る。(書くこと)
2	○文章を通読する。範読を聞きながら、キーセンテンスと考えられる箇所に線を引く。	・学習のねらいと進め方を説明する。 ・自分の体験を思い返しながら読むよう

	<p>○キーセンテンスを確認しながら段落ごとの内容の一行要約を行い、発表し合う。</p> <p>○文章を三つの大きなまとまりに分ける。</p>	<p>伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを考えて要約させる。 ・段落の要約を概観させる。
4	<p>○考えを広げるための観点を確認して、全文を通読する。【資料】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の内容について理解しながら、自分なりに考えるよう伝える。 <p>◇自分の考えを広げることができる。 (書くこと)</p>
5 (本時) 6	<p>○筆者の考えを確かめたうえで、筆者に自分たちの考えを伝えることを目的として課題を設定し、400字～800字程度の文章を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ノートで筆者の考えを振り返りながら自分の考えを深めるよう伝える。 ・課題を設定できない場合は共感的に相談し、助言する。 <p>◇社会生活の中から課題を見つけ、知識や体験と関わらせて文章のテーマを決定する。(書くこと)</p>
7	<p>○全員の文章をまとめた文集を配付し、読んだ感想を交流する。</p>	<p>◇文章を読み合い、課題設定や考え方について意見を述べ、自分の考えを広げる。(書くこと)</p>

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ①文章を読んで考えたことについて、多様な方法で情報を集めながら自分の考えをまとめることができる。(書くこと ア)
- ②説明的な文章を読むことを通して、筆者の考えに関心をもち、自分のものの見方や考え方を豊かにしようとする。(国語への関心・意欲・態度)

(2) 本時の展開 (6時間扱いの4時間目)

時配	学習内容と活動	指導や支援の手立て (◇は評価規準)
導入 3分	○文章の概要と本時の課題を確認する。	・「やさしい日本語」の論点を振り返る。
展開 45分	個性を生かした課題設定をし、筆者に届く文章を書こう！	
	○文章を読んで考えたことを筆者に向けて400字～800字の文章にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットに接続したパソコンや、必要な図書資料を検索できる環境を整備しておく。 ・課題設定でつまづいている学習者に対しては、学習ノートのメモや学習者の趣味等をいかに課題設定につなぐかについて助言する。
	<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ①35人35色のテーマで筆者を引き付ける！ ②課題を設定するまでは友人と相談してよい！ <p>→インターネット、図書資料等を活用して課題設定をノートに記録する。 →構成や記述の内容をノートで整理する。</p>	◇社会生活の中から課題を見つけ、知識や体験と関わらせて文章のテーマを決定している。
	<p>予想される課題設定 (文章の内容に着目して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災時の「やさしい日本語」(説明文) ・「やさしい日本語」についての評価(意見文) ・「やさしい日本語」を使ってみての考察(意見文/感想文) ・「やさしい日本語」を広げるために(意見文) ・「やさしい日本語」について調べたこと(説明文) ・「やさしい日本語」を改良するアイデア(意見文) ・災害時の言葉について(意見文) ・災害時の外国人の安全(意見文) ・私たちが使う言葉について(意見文) ・緊急性の高い情報をどのような言葉で外国人に伝えるか(意見文) ・外国人にとってわかりやすい日本語とは(意見文) ・災害が起きたときに緊急性の高い情報を伝える方法(意見文) ・語彙リストや言い換えのためのマニュアルを読んで(感想文) ・「情報が伝わる」とはどのようなことか(意見文) 	<p>予想される課題設定 (学習者の趣向に関わらせて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーの試合で生きる簡潔な指示の言葉(意見文) ・少年向け漫画で用いられる言葉の分類(説明文) ・LINEで使う言葉と「やさしい日本語」の共通点(説明文) ・子供向けアーケードゲームで用いられる言葉と「やさしい日本語」の共通点(説明文) <p>課題設定の修正が必要とされる例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の動物たちの活躍 →災害時に外国人を安心させるもの(①「やさしい日本語」による支援の要約 ②動物たち という形で書かせる) ・外国と日本の食文化の違い →外国人向けの日本語について(「やさしい日本語」のような外国人向けの日本語について、カレーのような日本人向けのインド料理をメタファーとして考察する。)
まとめ 2分	○次時の課題を確認する。	・自分の意見をわかりやすく記録する方法を考えるよう伝える。